

令和2年度
埼玉学園大学大学院
心理学研究科 FD 活動報告書

令和3年11月10日
心理学研究科
FD委員会

目 次

1	はじめに	1
2	FD活動に関する基本方針	2
2-1	FD委員会の委員構成	2
2-2	FD委員会の開催日及び議題	2
3	心理学研究科教育体制	
3-1	教育方針（ポリシー）	3
3-2	3ポリシーの検証	4
3-3	教育実施体制	5
4	大学院生による授業アンケート	
4-1	授業アンケート実施概要	13
4-2	授業アンケート実施結果	13
5	教員による授業報告	22
6	研究発表会及び意見交換会	
6-1	研究発表会	28
6-2	大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会	28
7	論文審査について	
7-1	修士論文中間報告会	29
7-2	学位論文発表会及び最終試験	30
8	おわりに	30
	参考資料	
1	埼玉学園大学大学院FD委員会規程	31
2	授業についてのアンケート(様式)	32

1 はじめに

埼玉学園大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は、平成 26 年度に臨床心理士養成のために開設されました。その目的は、高度かつ実践的な臨床心理学の専門知識を習得し、対人技術能力を培い、教育、福祉及び医療などの領域において、国民の生涯にわたる持続的な福祉と心の健康を支えることに寄与するところであり、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

なお、現在は国家資格である公認心理師の養成プログラムに対応したカリキュラムを開講しています。

本心理学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証することと、もし不十分な点があれば早急に改善を図り、さらに本研究科教育を充実したものにするために、埼玉学園大学大学院心理学研究科 F D 活動報告書を作成している。

2 FD活動に関する基本方針

心理学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。
(参考資料1) FD委員会の構成は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	小玉 正博
委員	心理学研究科教授	古澤 照幸
委員	心理学研究科講師	泉水 紀彦
委員	心理学研究科兼任教員	尾形 和男

2-2 FD委員会の開催日及び議題

FD委員会の開催日及び議題

令和2年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和2年度】

開催日	議題
令和2年 7月8日	(1) 令和2年度心理学研究科研究発表会の実施について (2) 令和2年度心理学研究科教育研究に関する意見交換会の実施について (3) 令和元年度心理学研究科FD活動報告書について
令和2年 11月13日	(1) 令和2年度心理学研究科研究発表会の報告について (2) 令和2年度心理学研究科意見交換会の報告について
令和3年 2月10日	(1) 令和3年度心理学研究科のFD活動について (2) 令和2年度自己点検チェックシートの策定について (3) 令和2年度心理学研究科のFD活動及び自己点検評価活動報告について

3 心理学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心と行動についての深い理解と科学的思考を身につけ、臨床的態度と専門的技法をもって人々に心理的援助のできる人材の養成を目的としています。このため、学位授与の要件としては、学生に次のような能力の修得を求めます。

- ① 学生が臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的実践力を修得していること。
- ② さらに、実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支えるための研究スキルが備わっていること。

これらの観点を踏まえて、以下の要件を満たしているときは、修了を認め、修士（臨床心理学）の学位を授与します。

大学院に2年以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目35単位（必修25単位を含む）以上、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」各4単位の合計43単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。本研究科は、文部科学省・厚生労働省の公認心理師法の定める必要科目を履修することにより、公認心理師の受験資格が得られます。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となっており、学位の取得により、臨床心理士の受験資格が得られます。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として、個人及び組織・地域からの援助希求に対して高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成します。

具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域によって編成されます。

教育課程編成の目的を効果的に実現するために、教育方法として、通常の講義形式のほか、事例研究方式、課題討論方式、ロールプレイ、グループワークを含む模擬実習など、具体的かつ実践的な体験学習を多く組み入れます。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心の問題に対応する実践的な人材として高い専門性と臨床的立場でのコミュニケーション能力および問題解決能力を重視する教育を目指します。本研究科の修了生には、公認心理師や臨床心理士としての活躍が期待されており、入学生には、学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求められます。

このため、本研究科では、次のような方法で入学者の選抜を行います。

【選抜試験】

- ① 入学後の研究課題と問題意識を明らかにした研究計画書を提出させる。
- ② 設置している科目の履修に必要な基礎知識を量るため、専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験を行う。
- ③ 書類選考及び口述試験により、公認心理師や臨床心理士としての人間的資質を確認する。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

3-2 3ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科は、心の健康を支援する人材の養成を目的として、人間存在に対する深い理解と科学的思考を身につけ、心理支援者として期待される臨床的態度と専門的技法の習得を目指している。より具体的には、①公認心理師資格試験と臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的実践力を修得していること、②実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支える研究スキルが備わっていることの二点である。

上記目標の達成は、学内・学外の臨床実習と平行して、特別課題研究の修士論文作成にも取り組む必要があることから、学生にとって多大な心身および時間的負担が大きい課題である。そのため指導体制として、学生一人ひとりに臨床指導教員と研究指導教員を置き、それぞれ連携協力しながら指導を行っている。さらに研究指導では主指導教員と副指導教員を置き、指導体制の充実を図っている。

令和2年度の本研究科修了生は3名であったが、その他1名は休学という結果になったことは、学生の学修課題に対して、より柔軟で丁寧な関わりが求められる。その一方で、社会人入学生が在学中に公認心理師資格試験に合格していることは、本研究科の人材養成の方向性が妥当かつ適切であることを示していると評価できる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成している。具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域である。教育課程編成の目的を効果的に実現するために、特に力を注いでいるのは、具体的かつ実践的な体験学習と臨床実践である。こうした視点は、文部科学省・厚生労働省の定める公認心理師法の必要科目を履修し、達成すべき到達目標の実現するように配置されていることにも反映されている。その成果として、上述のように、社会人入学生が在学中に公認心理師資格試験に合格していることは、本研究科のカリキュラムポリシーが妥当かつ適切であることを示していると評価できる。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科は、公認心理師、臨床心理士として心の健康を支援する人材の養成を目的としている。そのため、入学生には学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求めており、次のような方法で入学者の選抜を行っている。

一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）では、①研究計画書の提出、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験による確認を行う。令和2年度に一般選抜で入学した学生は2名である。うち1名は極めて優秀な成績を収め、大学院奨学生制度で奨学金を獲得している。以上のことから、本方針を踏まえて実施された一般選抜入学試験については適性であったと評価する。

学内選抜入学試験（本学の卒業を迎える学生を対象）では書類審査と口述試験が課された。その結果2名の入学者があった。学部在学中の成績評価は、3年次末までに「優」評価が8割以上と優秀な学生である。しかしながら、入学後のコロナ禍問題から派生した心身疲労により休学に至るなど、精神的健康度に対してより丁寧な配慮と指導を要する課題が提起された。今後は学内選抜においても筆記試験を課すことで、より多面的で公平な評価を行い、より健康度の高い入学者の確保が期待される。

3-3 教育実施体制

令和2年度は、専任教員及び客員教員を併せて、15名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3-3-1 専任教員

No.	氏名	職位	学位
1	小玉 正博	教授	医学博士
2	小山 望	教授	博士（社会福祉学）
3	杉山 雅宏	教授	博士（心理学）
4	藤枝 静暁	教授	博士（心理学）
5	古澤 照幸	教授	博士（心理学）
6	佐々木美恵	准教授	博士（生涯発達科学）
7	羽鳥 健司	准教授	博士（心理学）
8	泉水 紀彦	講師	博士（心理学）

合計8名

3-3-2 客員教員/非常勤教員/兼任教員

No.	氏名	職位	学位
1	柴田 勲	教授	—
2	山本 晴義	教授	博士（医学）
3	古曳 牧人	准教授	修士（文学）
4	伊里 綾子	講師	博士（心理学）
5	藤原 健志	講師	博士（心理学）
6	尾形 和男	兼担	博士（教育学）
7	増南 太志	兼担	博士（行動心理学）

合計7名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博
	臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	小山 望
	臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵
	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅰ	小山 望/藤枝 静暁
	臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山 雅宏/遠藤寛子
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	羽鳥 健司/泉水 紀彦
	臨床心理実習Ⅱ	小玉 正博/佐々木美恵
基礎科目群	データ解析法特論	泉水 紀彦
	臨床心理学研究法特論	小玉 正博
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	尾形 和男
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤原 健志
	人間関係学特論	小山 望
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	羽鳥 健司
	心理療法特論	羽鳥 健司
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	増南 太志
	学校臨床心理学特論	杉山 雅宏
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁
	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	古澤 照幸
研究指導	特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	小玉正博/小山望/杉山雅宏/ 藤枝静暁/古澤照幸/遠藤寛子/ 佐々木美恵/羽鳥健司

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的目標は、高度かつ実践的な心理学の専門知識の習得と対人技術能力の育成にある。より具体的にはさまざまな心理的問題を抱える人に深く関わる共感能力と質の高いコミュニケーション能力を有し、そうした資源を駆使して、個人及び組織・地域からの援助希求に対して個人的な心理支援とともに組織的で協働的な心理的支援ができる公認心理師、臨床心理士の養成である。

これらの目的を達成するために、「基幹科目群」、「基礎科目群」、「発展科目群」、「研究指導」の4科目群で教育課程を編成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 心理学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（心理学）	学位又は研究科の分野	心理学関係
卒業要件及び履修方法		授業時間等	
必修科目 33 単位を含め、43 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）の時間は 450 時間以上とする。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	15 週
		1 時限の授業時間	90 分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	1	2			○		
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2				○	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2				○	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1					○
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1					○
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1・2	10					○
臨床心理実習Ⅱ	2	1					○	
基礎科目群	データ解析法特論	1・2		2		○		
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○		
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	人間関係学特論	1・2		2		○		
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	心理療法特論	1・2		2		○		
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	学校臨床心理学特論	1・2		2		○		
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2		2		○		
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○			
研究指導	特別課題研究Ⅰ	1	4				○	
	特別課題研究Ⅱ	2	4				○	

3 - 3 - 5 時間割表

令和2年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科時間割表

【春期】

時限	月		火		水		木		金						
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室			
1限 9:00 ~ 10:30				臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	研修員室	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	増南 太志	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅰ	小山 望 藤枝静暁	研修員室	特別課題研究Ⅰ	藤枝静暁	研究室
2限 10:40 ~ 12:10				学校臨床心理学特論	杉山雅宏	研修員室	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	尾形和男	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅰ	小山 望 藤枝静暁	研修員室	データ解析法特論	泉水紀彦	心理学実験室
3限 13:00 ~ 14:30	犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古叟牧人	研修員室	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	小山 望	研修員室									
4限 14:40 ~ 16:10										臨床心理学特論Ⅰ	小玉正博	研修員室			
5限 16:20 ~ 17:50	特別課題研究Ⅰ	古澤照幸	研究室							特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ・Ⅱ 特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	小玉正博 小山 望 杉山雅宏 羽島健司 佐々木美恵	研究室			
6限 18:10 ~ 19:40										臨床心理実習Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	小玉正博 佐々木美恵 羽島健司 泉水紀彦	研修員室			
7限 19:45 ~ 21:15										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽島健司 泉水紀彦	研修員室			

【秋期】

時限	月		火		水		木		金						
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室			
1限 9:00 ~ 10:30	産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	古澤照幸	研修員室				精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田勲	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山雅宏 遠藤寛子	研修員室	特別課題研究Ⅰ	藤枝静暁	404
2限 10:40 ~ 12:10				臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	研修員室				臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山雅宏 遠藤寛子	研修員室	グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝静暁	404
3限 13:00 ~ 14:30				人間関係学特論	小山 望	研修員室	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	研修員室	健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	羽島健司	研修員室	臨床心理学研究法特論	小玉正博	研修員室
4限 14:40 ~ 16:10	特別課題研究Ⅰ	古澤照幸	研究室	臨床心理面接特論Ⅱ	杉山雅宏	研修員室				心理療法特論	羽島健司	研修員室			
5限 16:20 ~ 17:50										特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ 特別課題研究Ⅰ・Ⅱ 特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	小玉正博 小山 望 杉山雅宏 遠藤寛子 羽島健司 佐々木美恵	研究室			
6限 18:10 ~ 19:40										臨床心理実習Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	小玉正博 佐々木美恵 羽島健司 泉水紀彦	研修員室			
7限 19:45 ~ 21:15										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽島健司 泉水紀彦	研修員室			

集中講義

科目名	担当者	教室	内 容
心身医学特論	山本晴義	研修員室	10/30, 11/6, 11/20の4~7限, 11/27の4~6限
発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	藤原健志	研修員室	10/5, 10/12, 10/19の2~5限, 10/26の2~4限

3-3-6 院生

今年度（令和2年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総数 8名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	2	2
修士課程2年	2	2

③ 年齢別人数（名）

	22歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～
修士課程1年	3	1	-	-	-
修士課程2年	3	-	-	-	1

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	2	2
修士課程2年	2	2

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程2年>（修士論文発表会時点：令和3年2月3日）

- ・進学動機と大学生活の重点が大学適応感に与える影響
-不登校経験および不登校傾向の相違による比較検討-
- ・困難経験時の自己成長主導性及び認知的統制が精神的健康に及ぼす影響
- ・大学生におけるアイデンティティ発達が進路選択に対する自己効力および就職活動に及ぼす影響

<修士課程1年>（修士論文中間報告会発表会時点：令和2年10月21日）

- ・日本語版 the benevolent childhood experiences (BCEs) scale の開発
- ・適応的諦観の関連要因の検討

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古曳 牧人	4
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	4
学校臨床心理学特論	杉山 雅宏	4
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	小山 望	4
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	増南 太志	4
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	尾形 和男	4
臨床心理基礎実習Ⅰ	小山望/藤枝静暁	4
臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博	4
データ解析法特論	泉水 紀彦	4

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	2
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	2
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	2
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝 静暁	2
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	古澤 照幸	2
臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏	2
健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	羽鳥 健司	2
心理療法特論	羽鳥 健司	2
臨床心理学研究法特論	小玉 正博	1
臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山雅宏/遠藤寛子	2
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	山本 晴義	2

【通年】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理実習Ⅱ	小玉正博/佐々木美恵	4
臨床心理実習Ⅰ(心理実践演習)	羽鳥健司/泉水紀彦	4
特別課題研究Ⅰ	小玉 正博	1
	杉山 雅宏	1
	藤枝 静暁	1
	佐々木美恵	1
特別課題研究Ⅱ	佐々木美恵	2
	羽鳥 健司	2

3-3-9 定期試験

博士前期課程

【春期】

新型コロナウイルスの影響により、定期試験は、授業内のレポート課題等に替えて実施した。

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	筆記試験
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	筆記試験
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	レポート
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝 静暁	レポート
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	古澤 照幸	レポート
臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏	レポート
健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	羽鳥 健司	レポート
心理療法特論	羽鳥 健司	レポート
臨床心理学研究法特論	小玉 正博	レポート

3-3-10 実習について

実習については、2年次の履修科目である「臨床心理実習Ⅱ」の学外実習を視野に置きながら、1年次の「臨床心理基礎実習Ⅰ(心理実践実習)」の課外ワークとして、「埼玉学園大学臨床心理カウンセリングセンター(以下カウンセリングセンターとする)」での学内実習と学外の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行った。

なお、コロナ渦における感染予防対策上、現地での実習が難しい施設においては、実習担当者に来校していただき、現場実習に替わる講義をお願いした。

カウンセリングセンターでは、受付業務の研修を行い、相談事例のケースマネージメントを学ぶ。また、相談員とスーパービジョン契約を結び、学習状況によって「可」と判断された場合は担当事例の面接陪席、相談員の補助などを担当し、それに対する継続的なスーパービジョンを受けることにより、事例担当能力を習得する。その技能修得のため、毎週水曜日夕方に実施される受理会議や事例検討会への参加を義務づけた。

学外実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野について臨床心理士が在職する教育・福祉・医療関係の各施設見学とケースワーク等にかかわる研修実習を行った。実習は、下表の16箇所で行われた。これらの活動については、「埼玉学園大学臨床心理学研究」第6巻の活動報告として掲載されている。

【臨床心理実習先一覧】

分野	実習施設
教育	川口市立教育研究所 朝霞市子ども相談室・適応指導教室 志木市立教育サポーターセンター 越谷市教育委員会学校教育部教育センター
福祉	富士見乳児院 こどもの心のケアハウス嵐山学園 川口市心身障害福祉センターわかゆり学園 荒川区立心身障害者福祉センター荒川たんぽぽセンター
保健医療	横浜労災病院メンタルヘルスセンター 宮原メンタルクリニック ひがメンタルクリニック かたやまクリニック 川口市立医療センター
産業・労働	ティーペック株式会社 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント
司法・犯罪	さいたま保護観察所

4 大学院生による授業アンケート

4-1 授業アンケート実施概要

令和2年度春期における授業を対象として7月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和2年7月27日（月）～8月7日（金）

秋学期：令和2年12月7日（月）～12月18日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙を配布（参考資料2）、実施した。回答形式は、設問に対する自由記述式としている。回答用紙の回収については、院生が回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：履修者数（延べ人数）31／アンケート回収数 21 （回収率 68%）

秋学期：履修者数（延べ人数）16／アンケート回収数 16 （回収率 100%）

実施結果

その結果は、次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足の間結果を得ることができた。なお、授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 授業アンケート実施結果

心理学研究科 修士課程

【春期】 授業アンケート実施期間：令和2年7月27日（月）～ 8月7日（金）

【春期 授業アンケート】

【犯罪・非行心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)】(古曳 牧人)

8月3日（月）3時限 履修者数 4 提出者数 2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理職として働くうえで、非行や犯罪に関する知識が必要であると考えたためです。
 - ・必修だから
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・思春期・青年期の在外化、内在化問題について考える際に役立ちました。
 - ・犯罪を犯した方々への処遇など、適切な対応が必要なことがわかりました。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・非常に満足できました。
 - ・内容は興味深く、満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

【学校臨床心理学特論】(杉山 雅宏)

8月4日（火）2時限 履修者数 3 提出者数 3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・資格取得に必要なため
 - ・教育現場に興味があったから
 - ・学校や教育領域で活動する心理職として必要となる知識を身につけ活用するため
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・関係づくりの重要性について、考える部分があった
 - ・教育現場の様々な問題について理解を深められた
 - ・教育現場の現状を知り、どのような研究や支援が必要とされているのかを知ることができた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・研究というよりも、社会で生きていくために必要なことをたくさん学べたと感じており、満足しています
 - ・非常に満足できた
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【春期 授業アンケート】

【データ解析法特論】(泉水 紀彦)

8月7日(金) 2時限 履修者数 4 提出者数 3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必修だから
 - ・心理統計・SPSSの使い方を学びたかったから
 - ・心理職として活動する中で、必要な科学について学ぶため
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・研究するにあたって、データのとり方など構図がイメージしやすくなりました。
 - ・学部では学ばなかった分析方法を知ることができたので、修論で使用できる分析の範囲が広がった。
 - ・研究をする際の分析方法や重要な倫理感を学ぶことができ、役立てられると思った。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ソフトの使用方法について実践もあり、満足できました。
 - ・満足できた。
 - ・非常に満足できた。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)】(小山 望)

7月28日(火) 3時限 履修者数 4 提出者数 3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・資格に必要なだったから。学部時代に理論についての学習はしてこなかったため。
 - ・必修だから
 - ・心理士として学び活動を行うにあたり重要な授業であったため
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・調べて発表することで、理論の背景をしっかりと学ぶことができた。
 - ・対人援助の基本的な理論について知識を得ることができ、援助におけるイメージがついた
 - ・各心理療法の基礎を身につけることで、研究をどう支援に役立てるかの考えが深まった
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。
 - ・自身で発表したことで内容について理解を深められ、勉強になった
 - ・非常に満足できた
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【春期 授業アンケート】

【臨床心理学特論Ⅰ】(小玉 正博)

8月6日(木) 4時限 履修者数 4 提出者数 3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理職としてクライアントを支援し関わるために必要な知識を得るため
 - ・臨床心理の基礎を学べると思ったから
 - ・必修だから
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・臨床心理学の基礎的な考えを重視し意識して研究に役立てることができた。
 - ・カウンセラーになった時のCLへの対応などに役立つと感じました
 - ・不適応に陥っている人は本来の力を発揮できておらず、エンパワメントにより本来の力を取り戻して回復していく、という考え方が大変勉強になった
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・非常に満足できた
 - ・満足できた。事例をもとに展開したりしたのでわかりやすかったです。
 - ・臨床の現場に就くにあたり、基礎の基礎となるような内容を学べて満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【特別課題研究Ⅱ】(佐々木美恵)

8月5日(水) 2時限 履修者数 2 提出者数 2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・修士論文を書き上げるため
 - ・修士論文作成のため
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・自分がしたかった研究は何なのか、改めて考える機会を頂いた。
 - ・指導を受けて、研究が形になりつつあると思う
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足しています。
 - ・できた
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【春期 授業アンケート】

【特別課題研究Ⅱ】(羽鳥 健司)

8月28日(金) 4時限 履修者数2 提出者数 1

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・修士論文作成のために必修科目だったため
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・「心理学的研究のロジック」なるものが、少しずつ分かってきたような手応えを感じます。研究の考え方、具体的な進め方などの理解が進み、とても楽しいです。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・新型コロナウイルスの影響で大学が閉鎖しているときもオンラインでこまめにご指導を頂き、おかげさまで研究は 着々と進んでいます。大変満足と感謝しています。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

【教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)】(尾形 和男)

7月29日(水) 2時限 履修者数4 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・公認心理師の資格取得に必要だったから
 - ・単位が必要だから
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・修論を学校関係でテーマを考えているため。今の教員の現状をよく知ることができました。
 - ・教育現場の理解が深まった
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。
 - ・イメージが希薄であった現場について詳しい話が聞けて大変勉強になりました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。

【障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)】(増南 太志)

8月5日(水) 1時限 履修者数4 提出者数 2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理職として働くうえで、福祉領域はもちろん、どの領域で活動する中でも非常に重要な分野であるため
 - ・必修だから
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・障害を持つ人がどのような困り感を持っていて、どんなニーズがあるかを理解できたので、その点も研究に取り入れたいと思った。
 - ・濃度の差こそあれど、多かれ少なかれ、障害的な要素を抱えている人間は多く、個別に理解していくことの重要性に気づけた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・非常に満足できた。
 - ・障害に対する知識は浅かったので非常に勉強になりました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

【秋期】授業アンケート実施期間：令和2年12月9日（月）～12月20日（金）

【秋期 授業アンケート】

【心理療法特論】（羽鳥 健司）

12月10日（木） 4時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理士（師）として活動するうえで、必要となる知識を身に付けることができるため。
 - ・必要だったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・人の認知と行動が、どう結びついているか、という視点を役立てていけると思う。
 - ・認知を変容することの有用性と、そのメカニズムについて学べたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・CBTの基礎部分を学ぶことができ、今秋に活かすことができると思います。大変勉強になりました。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし
 - ・短い間でしたが、ありがとうございました。

【健康心理学実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）】（羽鳥 健司）

12月10日（木） 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必要だったため。
 - ・心理士（師）として活動するうえで、必要となる知識を身に付けることができるため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ストレスが健康に及ぼす影響について学び、ストレス軽減に寄与できる概念についても研究したいと思いました。
 - ・健康心理学の視点から人々の精神的健康にどのようにアプローチしていけるか等、視野が広がり、今後の研究に役立てていけると考えている。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・自分自身や日常に密接に関連する内容であり、周囲にも伝えることで少なからずケアに参加できていると感じられています。満足しています。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・他の授業との日程的な兼ね合いが厳しかったと思う。授業の内容には満足しているので、もっと負担の少ない日程で開講してもらえればよかったと思う。

【秋期 授業アンケート】

【臨床心理基礎実習Ⅱ】(杉山雅宏、遠藤寛子)

12月12日(木) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・実習を行うための基礎的な知識を身に付けるため。
 - ・必修だから
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・実践的な内容を学び、内部実習にもいかせており、大変有意義でした。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

【グループ・アプローチ特論

(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)】(藤枝 静暁)

12月19日(金) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理職として活動する上で必要な知識、技能を身に付けるため。
 - ・集団へのアプローチの仕方について学びたかったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・SSTの進め方を主に学んだことにより、SSTの視点から研究内容を仕上げていけると思う。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・臨床現場で活かせる技術を習得できてよかったです。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【秋期 授業アンケート】

【精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）】（柴田 勲）

12月9日（水）1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必要だったため
 - ・心理士（師）として活動していくうえで、必要な知識を身に付けられるため。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・様々な症状と対応について、医学的な立場からとらえることができ、大変勉強になりました。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）】（山本 晴義）

12月11日（金）2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・山本先生の講義を受けてみたかったため。
 - ・産業精神保健に興味があったから
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・身体の不調と心の関連について学び、研究の変数を決める際に役立てることができると思った。
 - ・ストレスをためないことの大切さを改めて学べたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・非常に満足できました
 - ・医学という立場から、現場の経験も踏まえて多くのことを学ぶことができ、大変満足しています。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【秋期 授業アンケート】

【臨床心理学特論Ⅱ】(佐々木美恵)

12月8日(火) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・必要だと思ったため
 - ・心理士(師)として活動していくうえで、必要な知識を身に付けられるため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・予防の重要性を学び、そこに結び付けられるような概念を研究していきたいと感じることができた。
 - ・人々の精神的健康をどのような点からサポートしているかという視野を広げることができ、今後役に立てていけると考えている。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・馴染みの薄かった精神分析について理解を深めることができたことは大変よかった。また、各テーマについて学ぶ中で、つながりが少しずつ見えてきて、臨床の世界について視野が広がったように感じる。
 - ・非常に満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし

以上

【特別課題研究Ⅱ】(佐々木 美恵)

12月16日(水) 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・修士論文作成のため
 - ・修了するため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・修士論文作成全般についての指導をうけられたと思います。
 - ・自分がしたい研究をさせていただけたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました
 - ・大変満足しています。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。

以上

5 教員による授業報告

本研究科では、大学院教育の改善・充実を図るべく、教育力向上に役立てることを目標に、個別の授業担当教員はもとより、大学院で授業を担当する教員全体で、改善点等をそれぞれが認識し、以後改善を図ることができるよう、授業担当教員による授業報告の提出を全担当教員に求めている。

令和2年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：小玉 正博
科目名：臨床心理学特論 I
今回はコロナ禍での遠隔授業という不規則な学習状況ではあったが、対面授業で十分討論できない部分を読書課題とすることで授業の内容を補強した他、オンライン授業の利点を活かして補助的な授業資料を多く提供したことで、より内容の濃い授業を進めることができた。特に基本的な臨床心理学の問題だけでなく、コロナ禍で遭遇する人々の心身健康リスク問題などもトピックスとして取り上げながら、そこから浮かび上がる臨床心理学の今日的課題についても論議できたことは有意義であった。以上のことから、心理的援助を展開する上で求められる臨床心理学的な考え方や知識、技術について理解し、臨床心理学専門家としての基本的態度を修得するという当初の履修目的に照らして、概ね計画に沿った修学成果が得られたと評価できる。
科目名：臨床心理学研究法特論
今年度履修は1名であったため、講義は最小に留めて履修者の研究課題と連動して、修正版グラウンデッド・セオリーと PAC 分析を使って実践的に質的研究を行った。 履修者自身の課題に即した研究法の実際の展開ができたことは、質的研究の理解と実践スキルを提供できたという点で有効だったと判断できる。
科目名：特別課題研究 II
春期はコロナ禍という特殊事情のもとで、オンラインという形で特別課題について指導を行ってきたが、秋期からはオンラインと対面のハイブリッド形式での指導となった。これまでとは異なる指導形式であったが、指導学生の都合と希望を尊重することでよりフットワークの軽い指導ができたものと判断できる。

令和2年度埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：小山 望
科目名：臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
臨床心理学の主要な理論、精神分析、分析心理学、来談者中心理論、行動理論、認知行動理論、ゲシュタルト理論、集団心理療法（サイコドラマ）など、院生がそれぞれ発表して、理論の理解を深めることを目的とした授業を行った。各理論の理解が十分でないところは、院生同士で質疑応答やグループディスカッションを行った。 また教員が院生の発表後各理論の特徴や理論の限界、有効性などを適宜コメントを加えながら、院生のサポートを行った。
科目名：臨床心理基礎実習Ⅰ
オンライン授業中は、カウンセリングの課題を出して、レポートしてもらおう形で行ったが、途中から、Teamsで、リアルタイムでカウンセリングのロールプレイングを行った。 対面授業が実施されてからは、対面式のロールプレイにして、教員がクライアント役になり、院生がカウンセラー役になる形で面接演習を行い、適切なカウンセリングの方法について、適宜コメントを加えて、藤枝教授とともに面接実習を実践した。

担当教員：杉山 雅宏
科目名：学校臨床心理学特論
学校現場での事例を多く紹介し、学校現場の特徴について、理解を深めていただけるような工夫を試みた。 心理臨床家が学校現場に溶け込むために、どのようなスタンスで教師との関係作りに努めるかについての理解を深めていただけるように工夫した。
科目名：臨床心理面接特論Ⅱ
可能な範囲で、臨床現場の事例を提供し、現場のイメージがわくような工夫を試みた。 特に、今後重視されるであろう、連携・協働を意識した現場事例の提供を意識的に多くした。
科目名：臨床心理基礎実習Ⅱ
カウンセラーの倫理については、多くの事例を提供し、法と倫理に対する意識を高めていただけるような工夫を試みた。 学校臨床、福祉臨床、産業臨床など、実際の臨床現場でのカウンセラーの働き方をイメージできるような工夫を試みた。

令和2年度埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：藤枝 静暁
科目名：臨床心理基礎実習 I
・受講生が4名いたが、継続的に参加したのは2名のみであった。この点で、ロールプレイが固定的になりがちであり、学生、教員共に難しさを感じた。 参加した2名は、熱心に取り組んでおり、最後の試験まで無事終わることができて、良かった。
科目名：グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)
・在学生在が2名であり、グループワークをするためには、ギリギリの人数であった。しかし、両名とも真剣にグループワークに取り組む、ロールプレイやリハーサルに積極的に参加した。その姿勢が、各自の学びにつながったと考えている。2名の受講生には、大変感謝している。
科目名：特別課題研究 I
・文献研究を中心に、英語および日本語の文献を読み、議論を通して、理解を深めた。比較的最近の文献を読むことで、研究動向を把握し、研究上の課題を明らかにすると共に、自らの研究テーマの精緻化に取り組んだ。他の授業の課題、学内心理実習等もあり多忙の中でも、真剣に取り組む、学習成果につなげることができた。

担当教員：古澤 照幸
科目名：産業・組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)
・産業・労働分野の「選抜」「能力開発」「アセスメントの検証」の3点を軸として授業を行った。受講者にもこれら3点を調べてもらい理解を深めてもらった。選抜、能力開発についてはどのような方法が企業にとっても、選ばれる人々にとっても合理的で科学的な方法となるのか、積極的に検討してもらった。アセスメントの検証についても積極的にその方法も学んでもらえたらと考えている。

令和2年度埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：佐々木 美恵
科目名：臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
<ul style="list-style-type: none">・理論的学習から体験的学習へとつなげることによって、基礎を確実にしたうえで実践に取り組めるようにした。・クライアントに資する所見書を作成できるよう個別指導によって実践的指導に努めた。
科目名：臨床心理学特論Ⅱ
<ul style="list-style-type: none">・臨床心理学における重要なトピックを選定し、院生が視野を広く、深くもてるような指導を心がけた。・臨床実践については、学内実習で活用できる実践的知識のほか、精神分析的心理療法の実践を伝えられるように工夫した。
科目名：特別課題研究Ⅱ
<ul style="list-style-type: none">・院生一人ひとりの個性や関心を尊重した指導を心がけた。・修士論文完成までの長いプロセスを完走できるように、その時々に必要な指導、助言を提示できるように意識した。

担当教員：羽鳥 健司
科目名：健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）
<ul style="list-style-type: none">・健康心理学および健康心理学的援助の基本的な考え方と方法が身に付けられるようにするために、健康心理学が対象とする主な疾患を取り上げて、それぞれの疾患の特徴やそれぞれの疾患に対応した健康心理学的援助方法を提示した。
科目名：心理療法特論
<ul style="list-style-type: none">・実際に行われる神経症水準の感情曝露を目的とした認知行動療法を理解実践できるようにした。専門書で独学できない部分を重視し、認知行動療法の意味を理解させ、教員のロールプレイを観察学習させ、学生間でのロールプレイを教員からコメントすることで、基本的な実際の技法を身に付けられるようにした。

担当教員：泉水 紀彦
科目名：データ解析法特論
<p>・今年度は、急遽オンライン授業対応となったため、従来の授業方式を変更した。変更した内容としては、主な統計手法である記述統計、統計的仮説検定、t検定、分散分析、重回帰分析、因子分析について受講者自身が説明資料をつくり他のメンバーに講義を行ってもらった。学部時代は講義を聴く立場であったが、大学院では他者に教える立場を経験することで、他者に教授するためには心理統計についての十分理解が必要となる。負担感が大きかったが、受講者はオンライン授業にもかかわらず丁寧な資料づくりと説明が行うことができていた。授業の後半は、デモデータを使用して、共分散構造分析、確認的因子分析、効果量、メタ分析といった学部では経験していなかった統計手法について実習を行った。また、研修者としての倫理観を育成するため、研究倫理や研究倫理申請の講義、研究倫理Eラーニングの受講を経験してもらった。この経験が修士論文の作成に役立てられると思う。</p>

担当教員：山本 晴義
科目名：心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
<p>・心理臨床領域で役立つ、医学の知識をなるべく具体例を提示して解説するようにした。また、メール相談事例から、産業現場での勤労者のメンタルヘルス状況について学んでもらった。事例のアセスメントと治療戦略について、学んでもらった。受講生は、非常に積極的にオンライン講義に参加してくれた。一方的な講義ではなく、対話形式で講義した。</p>

担当教員：古曳 牧人
科目名：犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
<p>・院生の授業への取り組みは熱心であったと感じている。例年、医療領域や学校領域を志望している院生が多く、司法・犯罪分野に関する関心を持ってもらえるように工夫している。一方、公認心理師試験ではこの分野も出題されるので、偏った内容にならないようにしているが、そうすると味気ない内容になりやすい。これらのバランスを取ることがなかなか難しい。</p>

担当教員：伊里 綾子
科目名：臨床心理査定演習Ⅱ
・学生が自身の体験に基づいて、実感を持ってアセスメントの長所や短所、必要性が理解できるよう心掛けました。具体的には、学生自身にテスト体験をしてもらい、そのスコアリングと解釈を丁寧に行いました。こうした工夫は学生の自己理解の促進にもつながったように思います。また、スコアリング練習を通して、実際の臨床場面での検査実施における注意点等も、学んでいただくことができたと思います。

担当教員：藤原 健志
科目名：発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
・発達心理学に関する基本的知識について、既存の教科書の内容を深めるために、文献研究の方法や文献購読の方法、また心理臨床場面における応用可能性について講義を行った。授業前半はワークを取り入れ、後半はその答え合わせを含めた講義と議論を行った。臨床場面で直面する発達の課題について、その理論と実践の両面から考察を行い、援助方法と関連させた講義を行った。

担当教員：尾形 和男
科目名：教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
・現在学校教育現場の抱える問題について、できる限り最新の情報を取り上げた。 ・現場教員の悩みについて、とりわけ保護者対応の問題や学校現場で多忙による諸問題の中で抱える悩みと精神的健康問題について、映像を取り入れて具体的に把握できるように努めた。 ・いじめの問題と学校の対応については、事例集や論文を中心として、学校心理士としてのコンサルテーションに基づく具体的な取り組みを取り上げ、受講者による意見交換を通して発展的理解に努めた。

担当教員：増南 太志
科目名：障害者（児）心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)
・授業では、障害児者に関する基礎的な内容についてとりあげた。 学生は真剣に取り組んでおり、自分たちなりによく理解していたと思われるため、より発展的な内容を取り上げても良かったかもしれないと感じている。

6 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施した。

6-1 研究発表会

日 時：令和2年9月16日(水) 11:00~12:00

場 所：埼玉学園大学3号館 3階 403教室

参加者：大学院担当専任教員、客員教員及び学部専任教員、学部生

内 容：

テーマ：「怒りを言語化する意味とは-社会的共有・筆記開示・感情教育-」

発表者：遠藤寛子 心理学研究科 准教授

6-2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日 時：令和2年10月28日(水) 16:00~16:30

場 所：埼玉学園大学3号館 3階 心理学実験実習室

参加者数：13名（教員7名、大学院生6名）

内 容：

院生からの主な意見

- ・オンライン授業においては、先生方にご配慮いただき、円滑に進めることができた。
- ・実習については、実習先の指導者や先生方のご協力で何とかできている。

教員の主な意見

- ・困ったことや相談したいことがあったら、可能な限り皆さんの利便性を図ろうと思っていますので、遠慮しないで言って欲しい。

7 論文審査について

本大学院心理学研究科では、修士論文作成過程において、1年次の秋期に構想発表会、2年次に2回の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

7-1 修士論文中間報告会

(1) 第1回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和2年5月27日(水) 10:30~11:50

場 所：心理学実験実習室

【第1回修士論文中間報告会】

時間	発表者	指導教員名
10:35~10:40	研究科長挨拶	
10:40~10:55	19MP0001 片岡 祥平	主指導：佐々木美恵 副指導：泉水 紀彦
10:55~11:10	19MP0002 川久保純子	主指導：羽鳥 健司 副指導：小玉 正博
11:10~11:25	19MP0004 山岸 寛奈	主指導：佐々木美恵 副指導：小玉 正博
11:25~11:40	19MP0005 山中 健市	主指導：羽鳥 健司 副指導：佐々木美恵
11:40~11:50	講	評

(2) 修士論文構想発表会・第2回修士論文中間報告会(1年次生・2年次生対象)

日 時：令和2年10月28日(水) 修士論文構想発表会 13:00、第2回修士論文中間報告会 14:10

場 所：埼玉学園大学3号館 心理学実験実習室

【修士論文構想発表会】(1人当りの発表10分・質疑応答10分)

時 間	発表者	指導教員
13:00~ 13:05	心理学研究科長挨拶	
13:05~ 13:25	20MP0002 佐藤友理恵	主指導：藤枝 静暁 副指導：小山 望
13:25~ 13:45	20MP0004 森谷 太一	主指導：小玉 正博 副指導：遠藤 寛子
13:45~ 14:00	講	評

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表10分・質疑応答10分)

時 間	発表者	指導教員
14:10~14:30	19MP0001 片岡 祥平	主指導：佐々木美恵 副指導：泉水 紀彦
14:30~14:50	19MP0002 川久保純子	主指導：羽鳥 健司 副指導：小玉 正博
14:50~15:10	19MP0004 山岸 寛奈	主指導：佐々木美恵 副指導：小玉 正博
15:10~15:30	19MP0005 山中 健市	主指導：羽鳥 健司 副指導：佐々木美恵
15:30~15:40	講	評

7-2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和3年2月3日(水) 15:00～17:00

場 所：302 教室

【学位論文発表会及び最終試験】(口述試験を兼ねる)

時 間	発表者	指導教員	研究テーマ
15:00～15:25	19MP0001 片岡 祥平	佐々木美恵	進学動機と大学生生活の重点が大学適応感に与える影響 -不登校経験および不登校傾向の相違による比較検討-
15:25～15:50	19MP0002 川久保純子	羽鳥 健司	困難経験時の自己成長主導性及び認知的統制が精神的健康 に及ぼす影響
15:50～16:15	19MP0004 山岸 寛奈	佐々木美恵	大学生におけるアイデンティティ発達が進路選択に対する 自己効力および就職活動に及ぼす影響
16:30～17:00	審査委員会(心理学実験実習室)		

8 おわりに

本年度も無事に6回目の修了生を送り出すことができた。この間の取り組みの成果については、掲載されている学生の授業評価や教員の授業報告にも見る通り、概ね満足の得られる大学院教育が達成できていると評価できる。修了生たちが臨床心理士および公認心理師として現場で活躍し始め、少しずつではあるが、埼玉学園大学のキャンパスに臨床心理学研究と実践の文化が根付きつつあるという感触を得ている。教員自身の研究活動の面でも、特に若手教員を中心に、より活発な研究成果が得られる展開を期待している。

修了生全体の臨床心理士資格取得率は8割以上を超えていること(臨床心理士(合格者17/受験者21))、また公認心理師の合格者も例年輩出している(公認心理師(合格者16/受験者23))ことから、今後も、教員を中心に、今まで以上に積極的に受験準備の支援を行い、在学中から院生が臨床心理士受験および公認心理師受験に向けて必要十分な専門知識と援助スキルを習得できるように指導を徹底していきたい。

参考資料 1

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

(目的及び設置)

第1条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関する事
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関する事
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関する事
- (4) 学長の諮問した事項に関する事
- (5) その他大学院のFDの推進に関する事

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事 務)

第8条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成23年3月31日までとする。

